

(別紙)

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)-+(Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の「地域交流委員会」と連携し、地域との交流や地域への貢献活動を行っている。職場会議等をととして職員にもその都度説明周知し、実践している。	法人で立ち上げた「地域交流委員会」と連携して小学生との交流や、運動会、音楽会などへ参加している。理念についてはパンフレットに記載、又月ごとの目標を定め掲示し職員への周知を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域交流委員会」で法人機関紙「柳泉会だより」を作成し地元区に回覧したり、今年初めて地元区の大人みこしにグループホーム職員が参加し区民の皆さんとの交流を深めた。	2011.7月に発行した柳泉会便りを地元の自治会に回覧するなど地域にGHのことを知ってもらおう努力がされている。子供みこしにお茶の接待をしたり資源回収にダンボールなどを出したり、担ぎ手不足の大人みこしへ参加協力をして地域へのかかわりが増している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の婦人会より認知症についての講演を依頼され、10月11日に講演会が開かれる予定になっている。 又、11月に芦原中学校のボランティア体験学習を受け入れることになっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年は、5月と9月の2回開催し、運営状況の報告や災害時の対応等について話し合いを行った。 グループホームの敬老会に合わせて開催し、行事の時の利用者の様子を見ていただいた。	2回開催された運営推進会議では外部評価の内容検討をしたり、立ち上がった防災委員会の内容を話して、より充実した防災訓練の内容について検討されている。職員が防空頭巾の製作に取り組んでいるのは新しい試みである。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回開かれる市のグループホーム部会での情報交換、事例検討などとおしてアドバイスをいただいている。 又、利用者の状況についても地域包括支援センターに相談し、アドバイスをいただくよう心がけている。	市内の介護事業者が地域包括の呼びかけにより月1回の定例会を持っている。各部会で検討会がなされ、行政への相談もスムーズに出来ている。又佐久圏域でのGHの交流もありコミュニケーションの研修や職員交流も行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関近くに階段があり危険なため、建物の構造上玄関の施錠をせざるを得ないが、それ以外の身体拘束は行っていない。 言葉づかいや声のかけ方などについても、接遇目標に掲げじゅうぶん気をつけるようにしている。	建物の構造上階段が危険なため常時施錠している。職員の中にはため口、大きな声を出す者もいたので接遇委員会で目標を定め言葉遣いや声かけなどに特に注意をはらっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員2名が高齢者虐待防止法の研修会に参加した。グループホーム内においても、職員の言葉づかいなどが虐待につながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員2名が成年後見制度の研修会に参加した。土地の処分について家族から相談があり司法書士の先生に繋げ成年後見制度の申請を行った利用者もいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は多少時間をかけ、すべての書類について説明し、家族の不安や疑問点については懇切丁寧な説明に努め、質問に対しても理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方からの要望や意見には迅速に対応するよう心がけている。又、家族からの意見等は面会の機会に利用者の様子をお話ししながら、要望等を聞くことにしている。経費の必要な事項については法人に要望している。	部屋の前の木を切って欲しいなどの要望があり即対応している。利用者からの具体的な要望は少ないが、月1回の通信や電話のあった親族からの要望についてはすべてノートに書き上げて全員確認して改善に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人が職員一人ひとりに「ひらめきノート」を配布し、気づいたことを提案することにより、小さなことでも改善するよう努めている。 又、月1回の職場会議には施設長が出席し、職員の意見を聞く機会を設けている。	ひらめきノートが出来てから職員提案による新しい取り組みが随時出来ており理事者、管理者も理解があり会議へも参加し意思疎通がスムーズに行われている様子が感じられる。ひらめきに表彰金もあり職員の励みにもなっている。職員会議に理事長が参加しアドバイスがあることも職員の意向の汲み取りや利用者理解に貢献している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職階、職務、職責内容に応じた任用の要件を定めている。又、職員の処遇全般の改善を進め、教育・研修を充実するとともに、法人全体の「安全衛生委員会」をとおして快適な職場環境の改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会の機会を増やし、日々のケアサービスの中で利用者の状態の理解やケアをどのようにしたらいいかを習得することにより、日常の業務に反映できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「佐久圏域グループホーム連絡会」が実施する圏域内のグループホーム相互交流訪問活動をとおして、他施設のケアサービス等を学び、質の向上を図るための機会としている。又、同会が年2回開催する学習会に、おおよしの職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定の段階で、管理者が家族や居宅ケアマネージャーからできるだけ詳細に本人の様子を聞くようにしている。又、本人とも面接し、状況把握はもちろん困っていることや不安に思っていることなどを聞き、入居後のケアサービスに繋げるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族からこれまでの経緯や本人の状況、困っていること、不安なこと、要望等を聞き、その情報を職員全員が共有したうえで介護に当たるよう努めている。 入居後も家族が来訪した際は、利用者の状況を報告したり要望を聞くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で本人の状況を聞き、専門医の受診や治療が必要と思われる場合は、専門医の紹介併せてどのように受診するかについても詳しく説明するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや箱折りなど利用者本人が得意とすることを大切に、一緒に教えていただきながら作業を行なう。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人が面会に来た際は、落ち着いて穏やかに過ごせるよう配慮しながら、本人の日頃の状態を話し、家人から要望等を聞くように心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真を見ながら利用者の過去と重ねた話を聞き出し、懐かしい話に花を咲かせている。	様々な行事などに参加してもらうことで馴染みの人たちの交流が出来利用者の笑顔が生まれていることが伺える。買い物や、なじみの美容院などに連れて行ってあげるにより普通の生活観が出てきている。写真を通して話を聞いてあげていることも穏やかな生活への一助となっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は、互いに話しやすい利用者同士を近くに作るなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望に沿った関係機関の照会をするなど、退居した施設利用者の家族からの相談に応じている。 又、入院等により契約が終了してからも病院に利用者を見舞っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活をとおして利用者本人の希望や意志を把握し、不都合なことや不具合があった場合には可能な限り本人の希望に沿って対応し、ケアプランに入れるようにしている。	利用者の要望記録をきちんととり、申し送り事項として職員への伝達が行われており、その時々で細かく対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のオリエンテーションや事前に関係者から聴取したこと、又、入居後把握したこと等を含めケアプランに盛り込んでいる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の何気ない一言ひとことに注意を払いながら、その日の状態に気を配っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のリーダーカンファレンスや状態により必要なカンファレンスを行い、利用者の変化の把握に努めている。 又、時にはケアマネージャーや看護師に相談し話し合いに役立っている。	管理者、計画作成者でリーダーカンファレンスを職場会の前に開き、月1回の職場会で全員の意見を聞くようにしている。来所した家族の意見なども積極的に取り入れ、介護計画は全員に見てもらってからファイリングしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各階ごとにカードインデックスを活用し、職員全員が利用者の情報を共有できるようにしている。又、利用者の状態に変化があった場合などには、速やかに職員全員が対応できるようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時の状態により、当グループホームでの対応が可能かどうかを職員間で相談しながら見極め、利用者本人にとって負担のない介護サービスが受けられるように取り組んでいる。		

グループホーム柳橋(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校の運動会や音楽会、中学校の文化祭などに招待していただき参加している。 又、グループホームの敬老会には地域の踊りの会の皆さんに来ていただいたり、イチゴ狩りや温泉施設での「家族会」を開催し、皆さんに楽しんでもらった。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には必ず看護師が付き添い、状態を報告するようにしている。又、本人の状態により専門医の受診が必要な場合は家族に相談し受診を勧め、身体的に重度化した場合も、今後について医師より説明していただき理解してもらおうよう支援している。	体調不良時の初期対応は柳橋先生が行い、月1回は専門医にお願いしての受診に付き添っている。連携がよくとれ認知症対応が丁寧にされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、施設利用者に変化があった場合には必ず報告しその都度適切に対応するが、状況によっては病院を受診するよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはグループホームでの生活を「情報提供書」により医療機関に詳しく伝え、環境の変化によるダメージが少ないよう対応している。又、入院中も的確な状態把握により早期退院に向け支援している。 同法人内の診療所に入院するケースが多く、病状の把握や主治医の意見聴取がしやすいが、他の医療機関の場合は「認知症」のため対応が難しい場合がある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかわる指針」を策定し、入居時家族に説明している。 又、重度化した場合、主治医、看護師、家族の治療方針の情報を職員も共有し、利用者の状態に応じた介護サービスが提供できるよう努めている。	入所時に親族に対して、重度化した場合の対応について説明はされている。又レベルの低下時にはそのつど話し合いがもたれている。	家族との話し合いで緊急時の対応又終末期の対応などについて細かく明記し、個別に対応しておくことを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小諸市グループホーム部会が主催し、年2回、救急救命講習を小諸消防署で実施している。今年度は10名の職員が受講した。 当グループホームの内部研修としてアンビューバックの使い方を習得した。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で「防災対策委員会」を立ち上げ、防災対策に取り組んでいる。当グループホームでは3月に「緊急連絡網」により全職員を緊急招集した。5月、8月に避難誘導訓練を実施し通常の限られた職員で利用者全員を避難させた。又、訓練の都度、緊急通報装置や消火器の使用訓練を実施している。	診療所他各部署の代表、ヘルパーなどで防災対策委員会を設置して防災対策に取り組んでいる様子が分かる。緊急連絡網で職員全員を緊急に呼び出した実績もある。避難誘導のマニュアルも策定されている。	建物の構造上の特性を考慮して、さまざまな避難誘導の方法を委員会などで検討されることを望みます。建物からの避難などについても継続して検討、改善をはかってください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1度、法人全体で「接遇委員会」を行い、グループホームではその方針に沿って言葉づかいなど目標を立て実行している。	接遇委員会の方針に従って、月ごとの目標設定をし言葉遣いや態度について職員の研修がされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の言葉や行動を常に注意深く見守り、どんなことを希望しているか推測しながらそれにあったケアサービスを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日にはドライブや舗装された庭を散歩したり、掃除の手伝いをする利用者もいる。 又、レク活動にも声掛けしているが、利用者本人の意志を大切に、無理には促さず自分の時間を過ごしてもらうようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何か欲しいと利用者から訴えがあった場合は、職員と一緒に掛けたり家族にお願いして対応している。 又、外出の際は、少しでもお洒落をしていただくよう心がけるとともに、髪のカットは足の不自由な利用者のため美容師にグループホームに出張していただく、家人が対応する場合もある。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、食前の台拭き食後の食器拭きをお手伝いしていただいている。 又、食欲が出るよう、利用者にあった食器を検討したり、食べやすく切ったりするなど工夫している。	レベルの安定している利用者の皆さんがテーブルを拭いたり、野菜の皮むきなどに参画している様子が伺える。移り箸にならないようひとつの皿に複数のおかずを盛り合わせるなど工夫が見られる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	グループホームに栄養士がいないため、栄養の詳しいバランス管理ができないので、法人内老健施設の栄養士に確認してもらいながらアドバイスを受けている。水分をあまり摂らない利用者については、水分摂取量をその都度記入し注意している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し行っている。又、口内炎については一日一回デントヘルスを使用。週に一度、ポリデントで消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の進行もあり、排泄用具を減らすことは難しいが、一人ひとりの排泄状態を把握し、なるべく失禁や失敗のないよう努力している。 又、自身でトイレに行く利用者も、一日一回は排泄の様子を確認することになっている。	排便記録をつけて管理をしている。排尿表についても毎日記録している。トイレ誘導の人が半数ぐらいあり記録に沿って誘導している。トイレの認識の無い人については職員が特に注意を払っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がチェックできるように一ヶ月間の排便チェックを使用している。又、薬やセンナ茶を内服している。レクリエーション等の時間にも軽体操を取り入れている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めてしまっているが、できるだけゆっくりと入浴してもらうよう心がけている。入浴前に拒否がある利用者も声掛けに工夫やタイミングを計りながら入浴してもらうようになっている。又、拒否の強い利用者は、主治医の指示をいただき入浴日のみ抗精神病薬を内服されているケースもある。	現在は1階と2階で一緒に入浴できるようにしている。従って2人介助になり転倒防止になり介助労力の軽減にもなっている。入浴拒否の人についても最低週2回は入浴できるよう何とか対応している。認知症の専門医からの薬の処方もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホーム入居前の生活習慣やその日の体調に配慮しながらお手伝いをしてもらっている。 又、一人ひとりの体調が違うのでその利用者の体調に合わせた室温調整を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から医師に利用者の状態を伝えていただき、その指示のもと内服を決めている。投薬ミスがないよう内服の前にもう一度確認する。又、投薬の際に間違いのないよう、食事ごとに色の異なったケースに入れ一目でわかるよう工夫している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族に利用者の趣味など記入していただき、それを参考にしながら支援をしている。 又、レクリエーション時には、毎回同じことの繰り返しではなく、工夫しながら行うことによりメリハリをつけるよう心がけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員数が増えたり、庭も歩きやすくなったので散歩を促すようにしている。行事(交流など)の時には一緒に出かけている。又、家族にも電話連絡をして一緒に出掛けてもらうこともある。	ひらめきノートのおかげで前庭を舗装してもらい、天気のよい日に散歩に出かけるのにいい環境が整っている。職員数が増えたので外出支援に手が回りやすくなったとのことである。	

グループホーム柳橋(第2ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はもう退居してしまったが、お金に執着する利用者には、家族と相談し財布を用意してもらい利用者自身が所持していた。その利用者以外はグループホームで管理している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から要望があった場合は、その都度家族に電話している。又、家族には近況報告や写真を送り様子が分かるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム全体が南向きなので、リビング等の共用空間は日差しを取り入れやすくなっている。 トイレはプライバシーを守るためカーテンを取り付け仕切っている。	全部が南向きの風通しのよい、又眺めのよい居室になっている。おしゃれに作ったが故認知症対応の施設としての危険箇所もあるが、広々とした室内、又共同空間食堂の隅に配置された家庭的空間など工夫が凝らされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はすべて一人部屋になっているので、一人になる時間が持てる。廊下の談話コーナーには座布団を用意し、利用者同士が自由に談笑できるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回り品は、利用者が入居前に使用していて使い慣れたものを持参していただいたり、居室に飾ったりしている。利用者に必要なものは、その都度連絡し家人に持ってきていただいている。	各個室とも利用者の個性が出ていて、普通の生活を送るための配慮がなされている。衣類なども備え付けのたんすにコンパクトにまとめられていて清潔感がある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の衣類は自身が片付けられるよう引き出しに貼り紙をし表示している。 利用者の状態によっては、トイレや居室が分からない時もあるので名前を大きく書いたり、居室入口に目印を付けるなど工夫している。		